

一般社団法人 埼玉私保連



広報

No.128

H28. 7月
発行



暑さも忘れる流しソーメン

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

給食従事者研修会報告書

「保育園給食と食育」～今あらためて考える給食室の役割～

日時:平成28年6月4日(土) 午前8時30分～午後4時00分

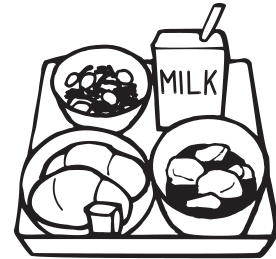
場所:三郷ひだまり保育園 参加人数:35名(講師1名)

内容:①調理実践チーム (AチームとBチーム)

- 1) 各園のレシピに従って調理
- 2) 保育士による「食育の取り組み」報告
- 3) 講演:「保育園給食と食育」について

② 調理実践チームに参加されない先生方

- 1) 保育所保育指針「第5章(健康及び安全)からの学び」
- 2) 献立作成「咀嚼を高める献立作りにチャレンジ」
- 3) 保育士による「食育の取り組み」報告
- 4) 講演:「保育園給食と食育」～今あらためて考える給食室の役割～



*各園の給食の試食、手づくりおやつを試食、交流会

新企画の研修として、給食従事者の先生方を対象に研修会を行いました。30名の定員があっという間に埋まった研修会。特に調理業務希望の方が予想以上に多く、案内配布後の2日目には、切とさせて頂きました。当日は、調理と献立作成のチームに分かれ研修がスタートし、調理チームはさらに2つのグループに分かれ、主食、副菜、おやつを作り、各レシピ提供園の指示に従って調理工程を教わりつつ、味付けの仕方や大きさなどを確認しながら賑やかにかつ迅速と安全に調理が進んでいきました。初めて出会う先生方のため、初めは緊張があったものの、大好きな調理業務に携わる楽しさと実践で学べる喜びを感じつつ、互いに気持ちを共有しながら次第に調理室は賑やかになっていきました。年齢も経験もさまざまな専門職同士が集まり、活気に満ちた調理研修になったと感じます。

参加者のアンケートから考察すると、調理体験を通して各園の手順や調理器具の使い方、大きさ、切り方、食材の組み合わせ方や献立そのものが新しい発見や刺激になったと記入されていました。その背景には、おおむね栄養士は各園に1名程度で業務を行っているため、献立がマンネリ化したり、保育士との連携を図る中で離乳食については互いに周知し合っているが、薄味や切り方の意図などが伝わらないことに悩んでいるなどの話が出ていました。例えば、小松菜は2センチ位に切るところも



あれば、咀嚼を高めるために噛む、ちぎることを目的に3センチ程度の園があったり、もやしの提供についても安全性や他の食材との兼ね合いを考え、小さく切る園と大きく切る園とさまざまな提供の仕方を感じたようです。

グループ別での情報交換では、栄養士としての食育の取り組みについて話し合われました。各地区からの参加だったこともあり、保育園の環境もいろいろ。畑がある園では畑の作物が献立に提供されたり、流しそうめんやカレー作り、身近にできるプチトマト、ピーマン、オクラの栽培を通して栽培や食育に関心を高め保育士との連携を図りながら行事を行う園などもありました。また日々のお悩み相談も兼ねおやつや離乳食についての互いの提供方法や内容を話しあっていきました。おやつは手ごろな

ホットケーキミックスを活用している園も多いようですが、提供の頻度が高く他園はどうしていますか？の質問に対して、小麦粉とベーキングパウダーを使用して提供していますなどの回答があり、別の質問では酢が苦手な園も多く家庭での提供があまりされていませんなどの意見も上がっていました。その他にもチームコンベクションを活用している園が多く、食材に対しての温度の切り替えやメニューに応じての対応についての意見交換もされていました。

一方、研修会チームでは、保育士だけではなく保育園で働くすべての職員が連携を図り、子どもの発達や成長を共有することが重要であるということを保育所保育指針総則で理解し、さらに第5章の健康及び安全を踏まえて、栄養士の役割を再確認しました。

献立作成では、「咀嚼を高める献立」として各グループに分かれ模造紙に主食、副菜2品で検討して貰い発表を行いました。日頃はパソコンでの献立作成ですが、今日ばかりは原始的なやり方で文字や絵にする方法を取り入れながら各園での献立をさらに工夫しながら作成するチームもありました。出来上がりはおみごと！咀嚼を高める献立としてまた明日から作れるものばかりで栄養士・調理師らしく食材をさまざまな献立に盛り込みながら子どもの食べやすい配慮した献立が模造紙一面に並びました。献立の一例では、ごぼうカレー、野菜スティック、ナスと

油揚げのみそ汁に酢豚など。食べ難い献立と食べやすさを取り入れながらの組み合わせで咀嚼を促す工夫が見られました。

保育士からの発信や食育ブースも設けられ、そら豆、たけのこ、子どもたちの手づくり食材図鑑などの展示もあり保育活動と給食室の連携をどのように図るのかのヒントも見つけたようでした。また保育士からの発信では、食育計画の作成にあたっての実践例や互いの専門分野を活かした連携について話があり、園全体のコミュニケーションを大切にしながら、子どもの関心を大切にした取り組みを行っていることを聞きました。また自然担当保育士がおり保育と給食のキューピット役になることの事例も発表されていました。例えば、保育士から柚子を食べたこ



とがない子どもが多く残食があった場合、給食室も小さく切って提供したり柚子に関心を高めて貰うように献立の中に取り入れていますが、香りをさらに体験するための話題から給食室と自然担当保育士の協同案で、たらいの中に柚子を浮かべて「ゆず湯」にし子どもと一緒に柚子の香を体験する場所を提供することで食べるようになった子が増えたなどの発表がありました。

午後は女子栄養大学の西村早苗先生からは、自身のお子さんを保育園に預けていた体験から「保育園の給食が本物!!」と子どもに言われたことを振り返り、保育園の給食が子どもにとってどれだけの身体の栄養と心の栄養になっているのかをにこやかに話されていた。また「食育」は子どもだけではなく大人にも必要で、子どものお弁当からも家庭の食事の状況が見えると話されていたのが印象的でした。幼児期にどの様に「食の体験」を広げられるかが大切であり、作る、食べることを基本ベイスにしながら誰かと一緒に食べる「共食」をすることで「ここにいていいんだよ」と実感しながら自信に繋がる心を育むことが大切と話されていました。

また先生が自らエプロンシアターについて、語って頂いた場面もあり、手づくりの口の大きい「ケンちゃん」を身につけ、栄養士、調理師だからこそ子どもの前に立つて演じたり、話したりすることの重要性を熱く説明してください

ました。司会者から最後のまとめの際に、自分の園で食育活動を提案し給食室発信で活動ができますか？の問いには会場が少しざわつき、「給食室発信の活動をやってみたいと思う」の質問に対してはほとんどのの方が手を挙げていました。専門職を活かし子どもの前に立ち発信してみたいと思う先生達が多いことを知り各園の給食従事者の先生達の意識の高さをあらためて感じるとともに、環境や機会を作っていくことも必要であることを実感した瞬間でした。

発表した保育士からも30名程の給食従事者の先生達を前にして、日頃は保育士集団にいるせい、か、今回のような立場が逆転する体験を通して栄養士、調理師の先生達の気持ちや少しわかったような気がするとの感想もあがり、互いにコミュニケーションを図ることが大切であることを実感したと述べていました。今回初めての給食従事者研修会でしたが、アンケートでは「次回もぜひ参加したい」「貴重な研修会だと思う」「他園の栄養士との交流はなかなかできないので嬉しい」などの意見が数多く上がっていました。長い一日だったと思いますが、レシピをお土産にさらなるおいしい給食作りと子どものための積極的な食育活動をスパイスに加え、各園が専門職同士の協同を大切にしながら取り組んで貰えることを実感し、互いにメールを送り合う研修になったと感じました。次回も多数のご参加をお待ちしております。

埼玉県私立
保育園連盟

第42回定期総会

日時…2016年6月8日(水) 13:00～16:50
場所…大宮ソニックス603会議室

埼玉県私立保育園連盟が一般社団法人へ移行し、初めての総会が開催されました。初めに篠田会長から開会挨拶、次いで森田会長より会長挨拶があり、開会となりました。ご来賓として、民進党・高木様、日本共産党・



柳下様、無所属県民の会・吉良様、無所属改革の会・中川様の埼玉県協議会議員の皆様を始め、埼玉県保育協議会長、埼玉県学童保育連絡協議会事務局長、埼玉県保育問題協議会長をお迎えし、盛大に催されました。また、現時点の社団社員(会員)数は220名ですが、出席者57名、委任状102名で過半数を超えたため総会は成立しました。

各部の2015年度活動報告及び監事監査報告は異議なく承認されました。役員変更に関して、広報部長にこぶし保育園・加藤園長、調査部長にえがお保育園・島村園長が推選されると共に、新任の部員紹介がなされ、これらも満場一致をもって承認

されました。

2016年度事業計画については、各部長から計画案及び予算が説明されました。参加者より予算対策部に対して予対活動についての要望があり、予対部長から活動方針が説明されることにより、これも拍手多数により承認されました。

最後に水上副会長から「皆様と共に力を合わせて頑張りたい。」と挨拶があり、総会は終了しました。



懇親会

総会研修会後には場所を移して恒例の懇親会が行われました。会員の親睦を図り情報交換の機会として欠かせない場であり、今回も役員・一般会員・業者の方等、約60名の参加がありました。挨拶・乾杯の後、多田先生の用意したゲームで会場は和やかな雰囲気になり皆さん楽しめました。会の趣旨である懇親が図られ、大いに盛り上がり最後まで話の尽きない中、会は終了しました。(広報部)



総会研修会

「社会福祉法改正とその具体的手順について」

講師：全国私立保育園連盟 常務理事 塚本秀一氏

6月8日(水)総会終了後、全国私立保育園連盟の塚本常務理事より「社会福祉法改正とその具体的手順について」のお話を頂戴しました。社会福祉法人を取り巻く課題が議論される中、平成28年3月31日に「社会福祉法人制度改革」が衆議院採決で成立、公布されたそうで、今年度中に何点かの必要な動きが出てくるそうです。特に私たち社福に関わる者にとって大きいのが「組織運営のガバナンスの強化について」の部分で、必置の議決機関として評議委員会の設置が義務付けられた部分でしょう。詳細の規定については、未だ定まっていないようなのですが、評議員としての見識を有する人材について、親族×、職員×以外はOKなのではないか。行政が認めればOKなのではないか。法人職員退職後の一定期間とは5年という目安ではないか。といった所見を頂きました。また「事業運営の透明性の向上について」では、役員全員の総額を公表する仕組みになるそうですが、職員からの役員が1名だけだと、給与額が特定される

危険があるので注意を払う必要性を強調されていました。その他、「財務規律の強化について」「地域における公益的な取組を実施する責務について」「行政の関与の在り方について」など概要をご説明頂きました。ただ、国では消費税の延期の問題などもあり、全体的に国のスケジュールが後ろ倒しになってきているそうで、未だ詳細が決定していない旨を嘆いていらっしゃいました。おおよそ8月末〜9月頃までには詳細が決定し、9月頃に簡単な雛形が各地方行政から出てくる見通しの為、各園が具体的に動き出すのは、その頃ではないかとの事です。また、今後の大きな問題として「社会福祉施設職員等退職手当共済制度の見直しについて」が挙げられ、今後、法人の持ち出しが大幅に増える可能性がある旨をご指摘頂きました。質疑では、「日程が後ろ倒しになり周知も出来ていないのに、スケジュールは待ったなしで進むのか？」という疑問に対し、「このまま進めば、実際我々が作業にかかるのは9月頃からになる

のではないかと」と回答されました。また「役員報酬の金額案は示されるだろうか？」という質問に対しては、「示されないのではないかと。理事は業務を実際に執行する職員がなった方がよいと考えられる。理事会、職員数の上限は無くなるだろう。」といったご回答を頂きました。約一時間という短い時間の中で、今回の法改正の要点や今後の課題やスケジュール等を細かくご教授頂き、大変参考になる研修会でした。

(研修部)



楽しむ姿が見られました。先生のご配慮で、研修内容は全て紙面に資料として記載されていたことや楽譜つきになっていて集中して参加し体験と同時に遊びを身につけ、保育現場ですぐに活用できるように配慮されていたことは大変ありがたいと思いました。1時間と短い時間の中で、数多くのわらべうたを覚えて頂き、保育士と子どもの1対1の遊びから、少人数での応用、運動会などにも使える大勢でのバリエーションも先生達にとっては貴重な保育材料になるのではないかと感じました。また参加する様子を見ていて、わらべうたは聞いたことがあっても実際どのように遊びを広げていけばよいのか困惑している先生達もいるのかと感じました。以前養成校の先生や園長先生方からも若い先生達は遊び方を知らない、物がないと遊べない等の意見も聞かれたことがあり保育士研修の原点はやはり参加型は必要であると感じた瞬間でした。

2人の先生方からは保育現場で役立つ実践を教えて頂いた後は「振り返ってみよう！」のテーマで望ましい保育士像についてお話しをさせて頂きました。中でも日々の勤務と同様に今回の研修参加にも繋がる「時間の概念」「熱心さ」「謙虚な姿勢」を踏まえ、「協調性」「責任感」「礼儀と身だしなみ」についてなど短い時間ではありましたが、事例を交えてお話しをさせて頂き、「明日からまた頑張ろう」のエネルギーを込めて研修会を終了しました。

(青年会議・調査部報告)

青年会議

〈子どもと繋がる、触れ合い遊び研修会〉

日時：平成28年1月19日(火) 午後1時30分(受付)
午後2時00分〜午後4時30分
場所：さいたま市文化センター 多目的ホール
講師：犬飼 聖二

開場とともに続々と若い先生達が参加し、多目的ホールに溢れました。最初は賑やかな場所になりました。味の先生達でしたが、犬飼先生の弾む声と活気に溢れる表現、ちょっと滑稽なしぐさが笑いを誘い、触れ合い遊びの講師にしてはちょっとおじさん?! いろいろ随分おじさんですが、それでも犬飼先生の長年の子どもに対する情熱と多くの経験、そして何より身体全体からあふれる優しく楽しい雰囲気会場が先生達と調和した研修のスタートとなりました。

犬飼先生の「僕! ピアノは得意ではない!」の挨拶から会場はどよめき、続いて「今日の研修でピアノは弾かないで、ギターでね!」と付け加えていました。

ピアノが得意でなくても、リズムがあれば大丈夫と会場の先生達を和ませながら2時間半の研修が始まり、歌あり、リズムあり、それからおしゃべりありのコンサート形式の参加型のためか研修はさらに賑やか雰囲気の中で、時間が経過することに連帯感が生まれ、知らず知らず遊びを

通して笑顔になっていきました。

研修中に幾度か「何もなくても遊べるのが触れ合い遊び。この触れ合い遊びが乳幼児期にとっても大切なだよね」と話していた犬飼先生です。そして、この大切さを伝えていくことが必要と語りながら、一人から2人組、そして集団遊びと年齢に応じた遊びの方法を実践しながら研修会は進んでいきました。男性保育士の先生達を見つけると生涯現役の男性保育士がいることにも触れ応援メッセージを含めながら、保育士も遊びを楽しもうとさらにエネルギーを送っていました。

「絵描き歌」では、型にはめることをしないのが大切と言いつつ何やらホワイトボードにくねくね線を描き、子どものイメージをいかに実現させていくのが本場の絵描き歌の面白さと語り、参加の先生達の要望に添えていました。

休憩時間を終えた犬飼先生はさらにエンジン全開!! テンポの良い体操みたいなダンスをみんなで行い、アレンジしたイス取りゲームを会場の皆さん全員で行うなどさらに触れ

合い遊びは続きます。「今日伝えた遊びは、保育士の工夫でいくらでも変化し、子どもの年齢に応じた工夫が大切。遊びはなんでもいい!! 形はない」と強く熱弁された瞬間でした。

触れ合い遊びは親子遊びを通して保育園の子ども同士が繋がり、子どもを通じて保護者同士が繋がること。また最後に、自然に子どもの中に遊びが残っていくことが乳幼児期に大切なことで、いわゆる伝承される大切なことで、いわゆる伝承される「わらべ歌」も同様で簡単な歌がついていることや、子どもに受け入れやすい訳は盛り上がりと言葉のテンポが良いことや、やわらかなリズムがさらに子どもの遊びとして伝承されることを説明していました。



☆☆ 編集後記 ☆☆

最近、当園施設・設備の劣化が目立ちます。春先に園舎数か所で雨漏りが報告され、最近では空調の具合が悪いと報告されました。泥縄で修繕、修理を行ってきましたが、頻繁に続くとそろそろストレスになりつつあります。しかし建築年数を考えると老朽ともいえないので、建て替えは無理…、機器が完全に故障したわけではないので入れ替えには二の足…。思いきれれば楽なのに、こんな事を悩んでいるのは、もしかしたら老化かも… (M・K)

埼玉私保連『広報』記事中の「施設訪問こんにちは」では、毎回会員園にお伺いして(今回はお休みですが…)園内を見学し、保育の様子を見て、お話を伺って記事にしております。園のピーアールにもなりますし、好評のコーナーですので、是非みなさんその節はご協力くださいね。

自園以外の保育園見学は新鮮で、毎回発見があり、参考になります。せっかくの機会ですので他園を見たい、あるいは建て替えを計画している等、見学希望される方は一緒に出掛けてみましょう。事務局までお気軽にお問い合わせください(定員2名程度になります)。 (S・K)

事務局 (一社)埼玉県私立保育園連盟
〒363-0015 桶川市南2-7-13 桶川中央マンション2F
TEL 048(772)8623
FAX 048(772)8635

保育園および園児を さまざまなリスクからサポートします

保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

全私保連
保険制度

園児総合保障
共済制度

上記以外にも、「学童保育」や「園舎の火災保険」などの、
保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

